

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 矢萩新一

## 「十字架の言葉」

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

(ヨハネ20:26)

私たちは、主のご復活・イースターを祝い、イエスさまに従って歩みたいと心から願いながらも、イエスさまを「十字架につける」と叫んだ民衆でもあります。自己中心の思いから離れられず、どこかで自分を正当化しなければ潰れてしまいそうで、心の戸に鍵をかけてしまいます。

私たちが大斎節・聖週を過ごす間、シリアで化学兵器によって殺された子どもたち、原子力空母の派遣、「北朝鮮」によるミサイル発射などに憤りを感じ、先日の米国副大統領の「平和は力によってのみ初めて達成される」という言葉に耳を疑いました。「北朝鮮」との関係について、軍事力を行使する米国を評価する日本の首相との会談の中で語った言葉です。軍事力は完全な抑止力にはなりえない、弱い立場にある人たちをさらに苦しめ、人の命を奪い去るもの、イエスさまの説く平和とは真逆にあるものだと思うのです。お隣の大韓聖公会では、朝鮮半島の平和統一を願って「北朝鮮」の子どもたちや女性への医療などの人道支援を継続しておられます。

悪いことをする者は力で押さえつけなければならない、そのことをわからせるためには多少の犠牲は仕方がない、抑止力のためには沖縄の人たちに犠牲を強いても仕方がない、これ以上赤字を膨らまさないために原発を再稼働させるのは仕方がない、政府に反抗的な人間を法律で縛っておくことは仕方がない。

神さまと人々を愛するという一番大切な教えに従って、一人一人の命を大切にしようとするキリスト者であるはずですが、どこかで神さまに言い訳をしてしまいます。頭ではわかっているつもり、本当はよくないとわかってはいるのです。

「十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、

## □会議・プログラム等予定

(4月25日以降)

4月

27日(木) 祈祷書改正委員会〔管区事務所〕

5月

1日(月) 第63(臨時)総会書記局会議〔管区事務所〕

11日(木) 礼拝委員会〔管区事務所〕

12日(金) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会〔立教〕

17日(水) 正義と平和・原発問題プロジェクト〔管区事務所〕

19日(金) 法憲法規委員会〔管区事務所〕

23日(火)～25日(木) 新任人権研修会〔大阪〕

25日(木) 文書保管委員会〔管区事務所〕

25日(木) 人権担当者会議〔大阪〕

6月

12日(月)～13日(火) 各教区青年担当者の集い〔名古屋〕

15日(木) 宣教協議会提言実行デスク会議〔管区事務所〕

15日(木)～16日(金) 定期主教会〔ナザレ〕

17日(土) 第63(臨時)総会〔牛込聖公会聖バルナバ教会〕

23日(金)～26日(月) 沖縄週間・沖縄の旅／人権セミナー〔沖縄〕

29日(木) 女性の聖職に関わる特別委員会〔管区事務所〕

29日(木) 主事会議〔管区事務所〕

### <関係諸団体会議・他>

4月25日(火) 大韓聖公会ソウル教区ベテロ李京浩(イ・ギョンホ)主教挨拶・就任・着座式〔ソウル〕

27日(木) マイノリティ宣教センター運営委員会〔早稲田〕

(次頁へ続く)

♥6月2日(金)は宣教師逝去者記念礼拝および青山墓地清掃のため、管区事務所通常の業務はお休みいたします。よろしくお願いたします。

わたしたち救われる者には神の力です。」(Iコリント1:18)

イエスさまの十字架の死とご復活は、すべての人を生かすため、すべての人の罪をゆるすためであったことを、心に刻み続けたいと思います。政治的な課題ではなく、キリスト者として一人一人のいのちにかかわる課題です。

イエスさまは、矛盾を抱え、同じ過ちを繰り返してしまう私たちの心の戸を開け、「あなたがたに平和があるように」と、私たちの真ん中に立ってくださる方、死をもって死を滅ぼされる方です。今の時代に復活のイエスさまは何と語りかけてくださるでしょうか。主のご復活をお喜び申し上げます。



## □常議員会

第62(定期)総会期第6回 2017年4月20日  
(木)

<主な決議事項>

1. 2016年度一般会計決算案に関して報告を受け承認した。
2. 宗教法人「日本聖公会北海道教区」規則変更・基本財産処分に関して報告を受け承認した。
3. 宗教法人「日本聖公会横浜教区」規則変更に関して報告を受け承認した。
4. 宗教法人「日本聖公会北関東教区」基本財産取得に関して報告を受け承認した。
5. 比叡山宗教者平和サミット30周年の協賛金を30万円で承認した。
6. ブラジル聖公会サン・パウロ教区伊藤八十二大執事の記念行事(8/4-14)参加に関して、派遣を検討中であると報告を受け、承認した。
7. NCC常議員・派遣委員交代に関して下記の通り承認した。  
常議員:司祭 須賀義和(東京)、前島恵さん(東京)  
部落差別問題委員:植田栄基さん(東京)
8. マイノリティ宣教センター理事・運営委員について下記の通り承認した。協賛金に関して2年後に見直すことにし、年額30万円で

(前頁より)

- 5月2日(火) NCC 役員会〔早稲田〕
- 9日(火) 日本キリスト教連合会常任委員会〔管区事務所〕
- 9日(火) 日本キリスト教連合会総会・講演会〔牛込聖公会聖バルナバ教会〕
- 15日(月) 部キ連総会〔大阪〕
- 16日(火) 日本宗教連盟監査〔増上寺〕
- 18日(木) NCC 役員会・常議員会〔早稲田〕
- 26日(金) 日本宗教連盟幹事会・理事会〔増上寺〕
- 6月12日(月) 日本宗教連盟幹事会・評議員会・理事会〔増上寺〕
- 14日(水)～15日(木) 日本聖公会婦人会会長会〔北関東〕

承認した。

理事:主教 武藤謙一(人権問題担当)、運営委員:司祭 卓志雄(宣教主査・東京)  
次回および次々回会議:7月6日(木)、10月10日(火)

## □主事会議

第62(定期)総会期第5回 2017年4月6日  
(木)

<主な報告・協議>

1. NCC 常議員・派遣委員交代について  
常議員:(旧) 司祭 神崎雄二(東京・辞退)、司祭 矢萩新一(管区・副議長)、(新) 司祭 須賀義和(東京)、前島 恵(東京)  
部落差別問題委員:(旧) 司祭 田光信幸(東京・定年)、(新) 植田栄基(東京)
  2. マイノリティ宣教センター理事・運営委員について  
理事:主教 武藤謙一(人権問題担当)、運営委員:司祭 卓志雄(宣教主査・東京)
  3. 海外出張承認について  
4/25 ソウル教区主教按手・就任式:主教 磯 晴久(日韓協働委員会)、司祭 小林 聡(青年委員会)
- 次回および次々回会議:6月29日(木)、9月11日(月)

## □関係諸団体

立教学院より[立教大学・大学葬のご案内]  
2016年11月15日、逝去された司祭ダビデ  
塚田 理師(立教大学元総長)の大学葬が  
下記の通り行なわれます。  
2017年6月3日(土)14時 立教学院諸  
聖徒礼拝堂(チャペル)

司式 主教 広田勝一(立教学院院長)  
説教 司祭 西原廉太(立教学院副院長)  
葬儀委員長 総長 吉岡知哉



## 《人 事》

東北

司祭 ピリポ越山健蔵	2017年3月31日付	白河基督聖公会管理牧師の任を解く。
司祭 フランシス長谷川清純	2017年4月1日付	白河基督聖公会管理牧師に任命する。
<信徒奉事者認可> (能代キリスト教会)	2017年3月10日付	ダビデ大井光次、ナタナエル大高一彦
<分餐奉仕協力許可> (能代キリスト教会)	2017年3月10日付	ダビデ大井光次、ナタナエル大高一彦

大阪

<信徒奉事者認可> (西宮聖ペテロ教会)	2017年4月1日付(任期2017年12月31日まで)	リベカ井出信子、ダビデ淵上 融
-------------------------	-----------------------------	-----------------

九州

司祭 ステパノ中村 正	2017年4月1日付	復職を許可する。 佐世保復活教会牧師および巖原聖ヨハネ教会 牧師に任命する。なお住居は佐世保復活教会 とする。
司祭 マルコ柴本孝夫	2017年4月1日付	佐世保復活教会牧師の任を解き、佐賀聖ルカ 伝道所管理牧師に任命する。
司祭 ビンセント原 寛	2017年4月1日付	牧師司祭テモテ山崎貞司のもと熊本聖三一教 会協力司祭として主日礼拝勤務を委嘱する。(任 期1年)
主教 ルカ武藤謙一	2017年2月1日付	公示(佐賀聖ルカ伝道所管理牧師任命)を解除 する。

沖縄

司祭 ヨハネ戸塚鉄也	2017年3月31日付	石垣キリスト教会管理牧師の任を解く。
------------	-------------	--------------------

## 《教会・施設》

富山聖マリア教会(京都)	郵送物送付先: (旧)〒930-0065 富山市星井町3-9-1 富山聖マリア保育園気付 (新)〒930-0065 富山市星井町2-5-4 富山聖マリア教会
守口復活教会(大阪)	教会名称変更:(新名称) 守口聖オーガステイン教会

## 2017年沖縄週間 / 沖縄の旅 ご案内

## 命どう宝 ～「いのちの話をしよう」～

『人の口は、心からあふれ出ることを語るのである』

(ルカによる福音書6:45b)

〔日程〕2017年6月23日(金)～26日(月)

司祭 ヨシユア 長田吉史

昨年9月22日に、米軍嘉手納基地離陸の戦闘機が沖縄本島近海に墜落し、また12月13日には米軍の新型輸送機オスプレイが名護市の海岸に墜落し、これで1972年以降、沖縄県内で起きた米軍機の墜落事故は47件を数えました。そして、日米両政府が米軍の普天間飛行場の全面返還で合意してから21年が過ぎた今年4月12日には、米軍嘉手納基地で有事を想定した戦闘出撃訓練が「予告なし」で実施されたのでした。

昨年12月に墜落事故が起きた時、「パイロットは住宅、住民に被害を与えなかった。感謝されるべきだ」という発言がありました。実際、目に見える被害は「今回は」なかったのだから感謝してもらいたいものだ、とするこの発言、皆さんはどのように受け取られたでしょうか。

沖縄ではこれまで何度も何度も目に見える被害が起きてきたし、そればかりか、いつ空から墮ちてくるかわからない不安や恐怖といった、目に見えない被害が起きています。

そのような中、日本政府は米軍普天間飛行場の2019年2月までの5年以内の運用停止について、「同飛行場の移設について地元のご協力が得られることを前提に取り組んでいく」との答弁書を閣議決定しました。そして今、沖縄防衛局が4月15日から辺野古への移設工事の準備に入り、その後、本体工事に着手しようとしているということは、あらゆる被害を受け続けている沖縄の皆さんのいのちがまったく考えられていないとしか言いようがありません。沖縄の皆さんのいのち、私たちのいのち、決してどちらかが特別な

ものではない。

今年の『沖縄週間／沖縄の旅』の主なプログラムは、初日に沖縄県平和祈念資料館、平和の礎で学ぶ時間から始まります。その後、在日米軍への思いやり予算を問うドキュメンタリー映画「ザ・思いやり」を視聴します。二日目には「ザ・思いやり」の内容を踏まえて、基地の存在を実感するため嘉手納基地の周りを歩く時を持ちます。『沖縄週間／沖縄の旅』の期間中に米軍機による様々な被害は体験できないかもしれませんが、その時はただ中断されているに過ぎないのです。その状況を目で見て、耳で聞いて、心で感じ、沖縄の皆さんの安全・安心、そして何よりもいのちのために祈る時としたいと思っています。三日目には午前中は分宿先の教会で主日礼拝を守り、午後から沖縄教区「慰霊の日」礼拝に出席します。

これまで苦しんでこられた沖縄の皆さん、「自分たちと同じ苦しみを次の世代にまで残さないで」と切に願う沖縄の皆さんに出会ってください。そして聞いてください。「世間がこう言っているから」とか、「自分の周りがこう言っているから」とか、そういうので沖縄の実情を自分勝手に判断しないでください。皆さんの目と耳と心で実情を見て、聞いて、感じることでご復活のイエス様に出会おうとする時を共に過ごしましょう。たくさんの方々の、特にまだ参加されたことのない方々、若い世代の方々の参加をお待ちしております。

## 第61回国連女性の地位委員会に参加して

浜井美喜(広島復活教会信徒)

3月10日～24日、ニューヨーク国連本部を中心に開催された第61回国連女性の地位委員会(CSW61)に、私と小林真綾さん(徳島インマヌエル教会信徒)の2名が聖公会中央協議会(ACC)代表団の日本メンバーとして派遣された。CSWは国連の経済社会理事会の中にある委員会の一つで、女性の地位向上について勧告・報告・提案等を行なう。ACCも国連オブザーバーであり、この会合に毎年代表団を送っている。今回世界各国から派遣された代表団は総勢22名。個人の資格で参加した聖公会関係者も多く、その他にカナダ・米国・英国の女性司祭や教会関係者が出席した。

今回は特に「女性の経済力を高める」という部分を中心に各国の抱える女性問題や教会の問題点について突っ込んだ話し合いをした。とはいうものの、それぞれの国の抱えている問題の違いはあまりにも大きい。カントリーレポートの発表会では各国の代表たちにたくさんの質問が飛んだ。

存在感を示したのはアフリカ勢で、女性が経済力を持つことが、即、女性と子どもたちの身の安全に関わるような現状の中で、教会が積極的に経済的な自立を支援していこうとしていることが報告された。欧米やアフリカでは社会の基

盤として教会は重要な役割を占めていて、政治や経済について教会が発言していくことは自然なことなのだろう。

私は、私見と断った上で、「日本では女性を登用していこうとする動きはあるものの、女性が今までの男性同様に働くことになれば、家庭や地域社会、介護・育児の担い手はいなくなるのではないだろうか。女性の社会進出を図り、男性をもっと家庭に返し、公的な介護や育児の支援が必要だ。また、同一労働同一賃金の実現も急務だ。」と述べたが、アジアの代表たちが「私たちの国もそうだ。」と言っていたのは興味深かった。

この会期中、私たちはACCの代表たちに「8.6平和礼拝」について報告することになっていた。内々の会で良いので、ということで、この11年の広島の取り組みについて聞いてもらおうと準備をしてきた。当日は「Hiroshima as the pilgrimage destination」と題して発表会を行った。私がまず「なぜCSWでヒロシマを語るのか」「平和のために私たちができること」について短く話したあと、小林さんが平和礼拝のプログラムや現状について報告した。そして、私がこの11年の平和礼拝や、広島に来られた世界中のゲストについてパワーポイントを使って発表した。「平和礼拝で奉仕をしたり、広島に来るゲストをガイドしているのは普通の生活をしている普通の人たちです。日本のクリスチャンは本当に数少ないのですが、皆それぞれの場所で良き働きをしているのです。」と結んだ。

カトリックが多数派でプレッシャーを感じると話していたブラジル、アルゼンチンの代表は「広島でアングリカンとカトリックと一緒に礼拝ができるなら、いつか私たちの国でも仲良く礼拝が出来る日がくるかもしれない」と話してくれた。

質問にもどうにか答えた。私の英語力が十分ではなくて、細かいところまで正確に伝わったか



マイケル・カリー米国総裁主教と

どうかは疑問だが、とにかくやり終えてほっとした。

今回の派遣で、女性の視点から教会や世界の情勢をみることができ、とても新鮮な感動を覚えた。旧態依然とした価値観だけでなく、激しい時代の変化の中で、マスコミやインターネットで作り上げられた世界観や女性観が私たちの意識の中に入り込み、もの見方をゆがめているように思う。世界は変わるし、変えなくてはいけない。また、変えてはならないものは全力で守らなくてはならない。その判断はつまるところ、個人と個人の対話から始まると思う。他の国の代表と話したことで、私の思い込みは随分と矯正されたし、彼女たちの悩みには共感できる部分が多くあった。また、小林さんをはじめとする20歳の参加者4人(南ア・米国・スコットランド・日本)が、物おじせず、のびのびと参加していたのは本当に頼もしかった。この若い世代は私たちが到達できないかもしれないところへ旅を続けてくれるに違いない。

帰国して落ち着くと、やはり事前の準備不足

が悔やまれた。また、数十年ぶりというブリザードが期間の前半にニューヨークを襲い、国連ビルも閉鎖されるなど、様々なハプニングもあった。代表として十分な働きができたかどうかは大いに疑問だが、自分としてできる精一杯の15日間だったと思う。

この派遣のためにご尽力いただいたすべての関係者の皆さまに心からの感謝を表してCSW61の報告としたい。



代表委員での夕食会

### 小名浜支援センター閉所感謝礼拝 のご案内

2017年4月18日

2011年3月11日の東日本大震災から早6年の歳月が流れ、小名浜の町にも日常が戻りつつあります。仮設住宅の方々には殆どの方が新しい住まいに移られ、それぞれの人生を歩み出しております。震災当初より延べ120名余りの方々が日立・小名浜をベースとしてご奉仕されました。

管区の支援が本年3月をもって終了となりましたが、小名浜聖テモテ教会が引き継ぎ、ホッコリカフェも仮設が閉所されるまで小さな力ですが、お伴させていただくことになりました。この度は6年に亘るみな様のご支援ご奉仕に感謝して小名浜支援センター閉所感謝礼拝を、下記のように開催いたします。お声をかけ合って是非お出でくださいますようお願い申し上げます。

○ 日時:

2017年6月2日(金) 午後 6時  
感謝の集い(5時受付)

2017年6月3日(土) 午前10時  
感謝礼拝(献金があります)

司式: 中村豊主教(元神戸教区主教)

説教: 木村幸夫司祭(大阪教区司祭)

- 感謝礼拝: 小名浜聖テモテ教会礼拝堂(いわき市小名浜愛宕町16-2/送迎有り)
- 感謝の集い及び宿泊場所: 小名浜松扇(教会近隣) 電話 0246-53-3869
- 申込み締切: 5月20日
- 問い合わせ: 小名浜聖テモテ教会 司祭 越山健藏 電話 090-7075-6506



2013年6月4日に行なわれたテモテ支援センター第2期の感謝礼拝

## フランシスコ1世教皇による 聖公会・ローマ諸聖徒教会訪問

ローマ 諸聖徒教会 中村真希

2月26日、私の所属するローマの諸聖徒教会ではこの教会史上最大のイベント・教皇訪問の礼拝と式典が行なわれました。諸聖徒教会は昨年10月に200周年を迎え、記念イベントが続きましたが、今回の式典はその最後を彩るものでした。当日は朝からゲストのヨーロッパ教区主教や補佐主教、他の教派の方々を迎えて聖餐式をささげ、セキュリティやプレスの準備の間に牧師館で持ち寄りの食事、そして式典の準備、と大忙しでした。

教皇訪問の式典は、礼拝としては夕の祈りの短縮版で、その中で200周年記念プロジェクトの1つである救い主キリストのイコンの祝福が行なわれました。私はサーバーとして、その祝福の際に用いる香油を教皇にお渡しし、受け取り、手を拭いてもらうという役割をいただきました。カメラやライトに囲まれての奉仕というのは何とも不思議な感じで緊張しましたが、「どこに塗るの?」と聞かれて「ここです」という会話を交わすなど、一生に一度の経験をさせていただきました。お噂通りの気さくな方であるという一面も拝見することができました。



ローマという場所で聖公会が200年続いたこと、そこをローマの主教である教皇が訪れ共に祈ったことには本当に大きな意味があるのだと

思います。お話の中で教皇は、聖公会との協働について、研究所ではなく現場の中で共に歩んでいきましょう、コリントの教会との間でパウロが謙遜を持って違いを乗り越えたように私達も歩んでいきましょう、とキリストを信じる者として分かち合い、一緒に進んでいくことの可能性を力強く示してくださいました。



神学についてはまだまだ論争は続くのだとしても、頭の理解を超えて共にできることがたくさんある、その例として教皇はカンタベリー大主教と共に、南スーダンを訪れる予定があることを話してくださいました。わたしたちは教派の違いに囚われず、同じキリストの共同体という意識を持って様々な問題に取り組んでいくことが今後ますます必要となる気がします。

今回この特別な機会に、教会の人たちの幸せそうな顔を見て、歴史的瞬間を見ることができて、教皇と大接近して、嬉しいことばかりでしたが、何よりもありがたかったのは、この場に一メンバーとして携われていること、一メンバーとして役割を担えているということでした。そして同時中継を見て注目して下さっていた日本の皆さんとのつながりも大変嬉しく思いました。与えられた交わりの強さと深さに改めて感謝しつつ、キリスト者としての道を歩んでいきたいと思っています。

# 神学校のために祈る主日

5月7日



主は彼を外に連れ出して言われた。  
「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」  
そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」  
アブラムは主を信じた。<創世記 15:5-6>

2017年  
日本聖公会

## 憲法記念日を共に祈ろう

日本聖公会  
正義と平和委員会 憲法プロジェクト

2017年5月3日  
憲法記念日によせて、共に祈りましょう。

「法廷の中で争ひを絶たせ、多くの民を導かれ、  
善い道を行かざるに導かれ、  
彼を行わしめて導かざる、  
憲法に因らばつて争はず、  
争はずありとこそ争はずい、」  
（イザヤ書48:18）

**まっ！の聲が  
届くうちに**

**【憲法】** 第9条 日本国は、正義と秩序を基調とする国際平和を擁護し、国際紛争を解決する手段として、前条にこの規定を置かずして、  
2 前条の目的を達するがため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の動員権は、これを認めない。

主よ、私たちは、戦争で奪われた幾千万のいのちの叫びから生まれた平和憲法を、あらためて想い起こします。この平和憲法を豊かに使い、主が愛される一人ひとりのいのちを大切にしよう世界へ歩み出す勇気と力をお与えください。

日本聖公会に賛同するすべての方を賛同者の皆さんが、憲法第9条の意義に賛し、「平和を実現する人々の夢」に向かわれて下さるよう、祈ります。2014年5月17日、日本聖公会（東京）青年会、2015年5月、東京聖公会の賛同により作成されたものです。1/7

**■東京教区青年会「例会」へのお誘い**

毎月一回、「例会」を行い、聖書を一緒に読み分かち合う時間を行っています。

参加資格は、18歳～35歳のどなたでも。予備知識、信徒／未信徒は問いません。

曜日時間：第4土曜日、14時～17時（次回は、5月27日）

場所：東京諸聖徒教会（東京都文京区千石）

内容：聖書を読んで分かち合う、夕の礼拝

\*予約などは必要ありません。どうぞおいでください。

東京教区 青年会 世話人会一同  
チャプレン 太田 信三  
チャプレン 上田 亜樹子